touhoku
「つなげよう 東北、日本、世界」

『あとぜきばせんかっ』熊本訪問

【2018年3月11日閑上復興だより第48号より】

若山優華

昨年熊本空港から直ぐの西原村の仮設住宅を訪れました。被災地の心の癒しを目的とした（一社）国際墨画会継続支援を受けている名取市の仮設住宅で、水墨画ナビゲーター証という許可を頂いており、会からの道具を持ち、ふらむ名取から2名で2日間水墨画を通した交流会を開催してまいりました。『閑上復興だより』と『ささ圭の蒲鉾』など閑上の魅力を持ち訪ねました。宮大工さんは墨の香りで昔を思い出したと、震災前の村の様子を手振りを交えて話して下さりました。幸運でうちは唐芋を今も作っているという方は、仮設の部屋に戻り自慢のシルクスイートを蒸かして来てくれました。皆様のお話を伺うと、名取市の仮設の見守りは行き届いていると感じました。亡くなった方の人数の違いなのか、あちらでは公の手厚い配慮というのは、たった 2 日間ではあまり感じる機会はありませんでした。「絵は描けんからのう。字を書いてもよかと？」益喜さんは色紙にご自分へのメッセージを書きました。お願いして頂いてきた色紙を、ふらむ名取の事務所に掲げてあります。また来ると約束してきました。熊本の仮設を訪ねて、全国から名取市を訪ねて下さった方々がどんな気持ちで私たちを応援して下さったのかを感じました。（一人じゃないよ、ずっと思っているからね。また来るからね。）そんな気持ちだったのではないでしょうか。きちんと後始末をしないと駄目だという公への思いを二日間で一番多く聞きました。その熊本弁が『あとぜきばせんかっ』という言葉でした。意見を求められたので、正直に伝えました。緊急支援は二年目には復興支援にシフトしないと、気が付かないうちに他者を頼りすぎてしまう方々も出てくる。自分を律することが出来なくなる人が出てくる。最終的には自分で頑張らないと心の復興は出来ない。初めは分け合っていたのに、いつのまにか独占したくなったり、自己の利益を重視したり人間らしさが出てくる。足並みを揃えて前に進むのは理想ですが、個々の考え、個々の財政で進み方が違うのは当たり前のことだと受け止めた人の心から復興してきたような気がする、と個人的な感想であると話してきました。その後、復興だよりの一号から読みたいというご希望を頂き西原村へ送りました。何かの参考になり個々の復興が進むことを願います。平島自治会長さんは支援の内容を吟味しながら、負を残さない支援を入れる心がけをされている方なので、その方に応援して頂けたお陰で、魅力ある熊本美人と熊本ダンディーと交流することが出来多くを学ぶことができ名取市での活動の参考にさせて頂いております。　若山陽子

若山陽子
一般社団法人ふらむ名取
理事・事務局長
防災士、宮城県防災指導員

若山陽子　高円宮久子

国際交流基金地球市民賞受賞

平成 29 年度（公財）未来の東北博覧会記念国際交流基金助成事業

外国人と共に料理しながら、食べながら防災の話をしよう！

あなたの 3 月 11 日体験を話そう

［一般社団法人ふらむ名取］活動報告

宮城県石巻の給水所　西谷美香（元 CAS 留学生）

震災から1週間後、(株)戸倉工業が当時販売していた淡水化装置（海や川の水から、飲用水等をつくる機械）が、宮城県石巻市・北上川沿いに設置されることが決まり、その現場（給水所、写真1、2）のお手伝いをしました。東京での会社勤務は通常通りに、大型連休と、それ以降は週末に出向くかたちでした。震災の年、5月の連休当時、給水所は主に3つの使われ方をしました。

1）給水タンクへの給水（給水車自体への給水や、おなじみのポリタンクも含め）
2）洗い場（被災者の方が、布、食器など、あらゆるものに付いたヘドロを落とす。写真3）
3）ボランティアの皆さんの、泥だし道具清掃
（道具のみならず、着たままの状態で作業着も。写真4）

私と言えば、特別なことは何一つできませんでしたが、給水所を利用される方々の作業をアシストしつつ、おしゃべりし、和んでいただく。そういったことでした。連休以降は、日中に給水所、夜は石巻で仲良くなった「居酒屋どんぐり」(https://localplace.jp/t100329375/)にて、地元の常連さんと酒を酌み交わし、それぞれの苦労話に耳を傾けました。被災者同士では「もしかしたら相手の被害の方が大きいかもしれない」と思うと、なかなか気持ちのままに話せなかったらしく、部外者である私には、気兼ねなく話せたようです。また、呑むことで、お店の売り上げにも貢献。7年経ったいまでも、居酒屋どんぐりで飲んで歌って、牡鹿半島・竹浜（たけのはま）で牡蠣剥きをしたり、田代島(猫島)で森林伐採したり、石巻を楽しんでいます。一緒に石巻で遊んでみたい方、ミッチーを通じてぜひお声掛けくださいませ！　【2018年9月】

1
西谷美香

2

3

4

ロンドンしゃくなげ会会長 満山 喜郎

町制施行 50 周年記念事業の一環として、ゆすはら座で行われた「土佐源氏」公演がご縁で、

ゆすはら未来大使にご就任となりました

俳優・独演劇「土佐源氏」坂本長利氏

1929年（昭和4年）、島根県出雲市生まれ。「ぶどうの会」「変身」等の劇団を経て、小劇場運動の先駆けとして活動。大劇場での商業演劇公演も含め、映画・テレビ・ラジオドラマなど、あらゆるシーンでその演技力と存在感を発揮してきた。60 年以上の芸歴の中で、数多くの名だたる俳優と共演し、作家・演出家からも高い評価を得ている。テレビドラマでは『Dr. コトー診療所』の村長役で親しまれた。2013 年公開の坪川拓史監督映画『ハーメルン』では西島秀俊、倍賞千恵子らと共に主演。代表作である独演劇『土佐源氏』は、1967 年の初演以来 50 年間、国内のみならず海外でも絶賛され、現在 1190 回を超える上演回数を伸ばし続けている。2011 年の胃ガン手術後も精力的に舞台に立ち続け、呼ばれたら全国どこへでも出掛けて上演する「出前芝居」を 88 歳の現在も展開中である。ほかに、作家・水上勉が坂本の独り語りのために書き改めた『越前竹人形』の上演も行っている。1985 年紀伊國屋演劇賞特別賞、2000 年旅の文化受賞、2017 年ゆすはら未来大使（高知県高岡郡梼原町）就任。同年、甲斐さやか監督・映画『赤い雪』(2018 年公開予定)、テレビ朝日系列ドラマ「やすらぎの郷」、NHK　E テレ　ドキュメンタリー番組『ETV 特集』などに出演。

ゆすはら座

仲村映美［ 響和堂 代表、坂本長利氏マネージャー ］

「100歳になったら、もう少しまともな芝居ができそうな気がする」という本人の役者魂を輝かせる舞台を作ることが、私の使命であり、素晴らしい芸術を出来るだけ多くの方に伝えるという響和堂の役目です。

自分の役目を全うするために赤坂に開業した『Barいざなみ』も4年目に入り、お陰様でたくさんのお客様に支えられて順調に営業させていただいたおります。『いざなみ』が無ければ、響和堂の活動もままなりませんので、引き続きどうぞご愛顧くださいませ。

◎響和堂［tel.080-4200-0808、https://kyowado.jp 東京都港区赤坂 4-4-18-306］
◎Bar いざなみ［https://bar-izanami.com 東京都港区赤坂 3-10-14 赤坂フォディアビル B1F］

3.11は、絶対に忘れてはいけません　相澤和久

お元気ですか？早くも、8年が経とうとしています。3.11 は、絶対に忘れてはいけません。また、アルカディアで、ミッチー、に出会えた事は、私に取って宝物でもあります。3.11 は、絶対に忘れてはいけない、私の大切な人を亡くした日でもあります。また、私の仕事作文コンクールで文部科学大臣賞「明日への一歩」を勝ち取った一年でもあります。色々と複雑な一年でありましたが、色々な方々と出会え別れをしのぐる事もあった年でした。明日で、9年が経ちますね。凄く早く感じますね。ミッチーに出会えて本当に良かったです。ありがとうございます。今後とも、よろしくお願いします。お体には気をつけてくださいね。